

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第38期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 レック株式会社

【英訳名】 LEC, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 永 守 貴 樹

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋二丁目1番3号

【電話番号】 03 3527 2150

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理部長 増 田 英 生

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋二丁目1番3号

【電話番号】 03 3527 2150

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理部長 増 田 英 生

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第37期 第2四半期 連結累計期間	第38期 第2四半期 連結累計期間	第37期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(百万円)	20,243	23,330	42,162
経常利益	(百万円)	1,868	2,375	4,182
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,177	1,588	2,915
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,163	1,291	2,598
純資産額	(百万円)	28,257	30,371	29,423
総資産額	(百万円)	50,617	55,419	53,701
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	33.37	44.99	82.61
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	32.88	44.33	81.38
自己資本比率	(%)	54.4	53.2	53.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,038	1,904	3,754
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,914	2,661	6,146
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	305	58	357
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,635	8,981	9,736

回次		第37期 第2四半期 連結会計期間	第38期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	13.13	25.75

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

3 2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第37期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

4 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や金融政策等を背景に緩やかな回復基調で推移しておりますが、通商問題の動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱問題や中東情勢の緊迫化等、先行き不透明な状況が続いております。

当グループの属する日用品業界におきましては、雇用・所得環境は改善傾向にあるものの、社会保障等将来に対する不安感等から、消費者マインドは足踏み状況にあります。日用品等生活必需品に対する低価格・節約志向が継続する一方で、人手不足により人件費や物流費等の諸費用も上昇しており、経営環境は厳しい状況で推移いたしました。

このような環境の中、当グループでは、キャラクター関連製品、コスメ関連製品及び洗剤等の消耗製品等の開発に注力し、積極的に新製品を発売してまいりました。また、新製品発表会の開催等の販売促進策を展開することにより、シェアの拡大及び新規顧客の獲得等に努めるとともに、物流面における顧客対応力の強化や効率化、生産性の向上及び徹底的なコスト削減を推し進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2018年12月に譲受けた「バルサン」ブランドの殺虫剤事業に係る売上高が新たに加わったことや消費増税前の駆け込み需要と思われる売上高の増加等から233億30百万円(前年同期比15.2%増)となりました。利益につきましては、当該事業譲受に際して生じた店頭在庫の引取費用及び人件費の増加等があったものの売上高が伸張したことから営業利益は22億53百万円(前年同期比18.4%増)、経常利益は23億75百万円(前年同期比27.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億88百万円(前年同期比34.9%増)となりました。

当グループの事業は、「日用雑貨衣料品事業」の単一セグメントであるため、セグメントごとの業績の記載を省略しております。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ17億17百万円増加し、554億19百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ4億11百万円増加し、352億8百万円となりました。主な増加は、商品及び製品の増加9億75百万円及び受取手形及び売掛金の増加4億63百万円であり、主な減少は、現金及び預金の減少7億54百万円であります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ13億6百万円増加し、202億10百万円となりました。主な増加は、有形固定資産の増加17億30百万円であり、主な減少は、投資有価証券の減少等による投資その他の資産の減少3億39百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ7億70百万円増加し、250億47百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ23億5百万円増加し、114億46百万円となりました。これは主に、短期借入金の増加10億81百万円及び1年内返済予定の長期借入金の増加8億50百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ15億35百万円減少し、136億1百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少15億円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ9億47百万円増加し、303億71百万円となりました。主な増加は、利益剰余金の増加12億43百万円であり、主な減少は、その他有価証券評価差額金の減少3億57百万円であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ7億54百万円減少し、89億81百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は19億4百万円(前年同期は20億38百万円の増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益23億70百万円及び減価償却費10億79百万円による増加と、たな卸資産の増加額9億73百万円、売上債権の増加額4億76百万円及び法人税等の支払額3億52百万円による減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は26億61百万円(前年同期は19億14百万円の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出27億10百万円による減少であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は58百万円(前年同期は3億5百万円の減少)となりました。これは主に、短期借入金の純増加額10億83百万円による増加と、長期借入金の純減少額6億50百万円及び配当金の支払額3億43百万円による減少であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えしております。

当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではなく、株式会社の支配権の移転を伴う買付提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的、態様等から見て企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社の企業価値の源泉としては、「商品企画開発力」があり多くの知的所有権を保有しておりますが、当社株式の買付を行う者がこれら当社の企業価値の源泉を理解し、これらを中長期的に確保し、向上させられるものでなければ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることとなります。このような濫用的な買収に対しては、当社は必要かつ相当な抵抗をすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

#### 具体的な取組み

当社は、2006年5月2日開催の取締役会決議にて、「当社株式等の大規模買付行為に関する対応方針」を導入し、その後、内容を一部変更の上継続してまいりましたが、2018年6月開催の定時株主総会終結の時をもって有効期間が満了することから、企業価値の向上、株主共同の利益の保護といった観点から、延長の是非も含めそのあり方について検討した結果、2018年6月28日開催の第36回定時株主総会において「当社株式等の大規模買付行為に関する対応方針」(以下、「本プラン」という。)の継続を決定しております。

本プランは、当社株式等に対する大規模買付行為が行われる場合に、当社取締役会が、大規模買付行為を行おうとする者または大規模買付行為の提案を行う者(以下、併せて「大規模買付者等」という。)に対して、当該大規模買付者等及び大規模買付行為に関する情報の提供を求め、第三者委員会による勧告等を最大限尊重して、当該大規模買付行為について評価・検討し、大規模買付者等との買付条件に関する交渉や株主の皆様への代替案等の提示を行い、一定の場合には対抗措置を発動するための手続きであります。

本プランは、当社が発行する株式等について、(a)保有者及びその共同保有者の株式等保有割合が20%以上となる買付、または(b)公開買付後の公開買付者の株式等所有割合及びその特別関係者の株式等所有割合の合計が20%以上となる公開買付を対象としております。また、大規模買付者等に対し、事前に大規模買付者等の概要、買付目的、経営方針等に関する必要かつ十分な情報及び本プランに定められた手続きを遵守する旨の誓約を明示した書面等を当社取締役会に提出することを求め、当社取締役会が必要かつ十分な情報を入手後、当該大規模買付行為に対する評価・検討等を適切に行うための一定の期間を設定(以下、「取締役会評価期間」という。)し、取締役会評価期間終了日までに当社取締役会としての意見を公表するものとしております。なお、大規模買付者等は、取締役会評価期間が経過した後においてのみ大規模買付行為を開始することができるものとしております。

本プランの手続きが遵守されない場合には、当社取締役会は、当社の企業価値及び株主共同の利益を守ることを目的として新株予約権の発行等の対抗措置を講じる可能性があることといたしました。また、大規模買付行為に対して当社取締役会が発動する対抗措置の合理性・公正性を担保するため第三者委員会を設置しております。

#### 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

本プランは、前記 記載のとおり、その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされ、かつ、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、いずれも基本方針に沿うものであります。

なお、本プランにおいては、当社取締役会の恣意的な判断によって対抗措置が発動されることを防止するため、対抗措置を発動する場合には必ず第三者委員会の判断を経ることが定められており、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

#### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当グループの研究開発費の総額は6億21百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	115,565,360
計	115,565,360

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	38,165,340	38,165,340	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。
計	38,165,340	38,165,340		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		38,165		5,491		6,949

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8 11	2,536	6.99
青木光男	東京都中央区	2,165	5.96
永守貴樹	京都府京都市西京区	2,000	5.51
株式会社エスエヌ興産	京都府京都市中京区烏丸通二条下る秋野々町518番地	2,000	5.51
福山通運株式会社	広島県福山市東深津町4丁目20 1	1,896	5.22
渡邊憲一	静岡県藤枝市	1,553	4.28
GOLDMAN, SACHS & CO. REG (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	1,444	3.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,319	3.63
高林滋	静岡県周智郡森町	1,200	3.30
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8 12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	981	2.70
計		17,096	47.11

- (注) 1 株式給付信託の導入に伴い、資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)が信託財産として当社株式981千株を所有しております。
- 2 2019年5月13日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、明治安田生命保険相互会社及びその共同保有者である明治安田アセットマネジメント株式会社が2019年4月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	374	0.98
明治安田アセットマネジメント株式会社	東京都港区虎ノ門3丁目4番7号	1,126	2.95

- 3 2019年8月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、ダルトン・インベストメンツ・エルエルシーが2019年8月16日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
ダルトン・インベストメンツ・エルエルシー	1601 Cloverfield Blvd., Suite 5050N, Santa Monica, CA 90404, USA	5,661	14.83

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式 (自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,881,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 36,279,700	362,797	
単元未満株式	普通株式 4,640		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	38,165,340		
総株主の議決権		362,797	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式給付信託の導入に伴い、信託財産として資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)が所有する当社株式981,200株(議決権9,812個)が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式70株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) レック株式会社	東京都中央区京橋 二丁目1番3号	1,881,000		1,881,000	4.92
計		1,881,000		1,881,000	4.92

- (注) 株式給付信託の導入に伴い、信託財産として資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)が所有する当社株式は上記自己名義所有株式数には含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,464	17,709
受取手形及び売掛金	7,044	7,508
商品及び製品	6,102	7,077
仕掛品	470	441
原材料及び貯蔵品	1,618	1,621
その他	1,136	920
貸倒引当金	41	70
流動資産合計	34,797	35,208
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,841	4,198
その他(純額)	9,367	10,741
有形固定資産合計	13,208	14,939
無形固定資産		
のれん	753	657
その他	223	234
無形固定資産合計	976	891
投資その他の資産		
投資有価証券	3,675	3,177
その他	1,043	1,202
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	4,719	4,379
固定資産合計	18,904	20,210
資産合計	53,701	55,419

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,923	1,842
短期借入金	109	1,190
1年内返済予定の長期借入金	4,450	5,300
未払法人税等	424	850
賞与引当金	303	335
その他	1,929	1,927
流動負債合計	9,140	11,446
固定負債		
長期借入金	13,500	12,000
株式給付引当金	141	172
退職給付に係る負債	399	391
資産除去債務	36	36
その他	1,059	1,000
固定負債合計	15,136	13,601
負債合計	24,277	25,047
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,491	5,491
資本剰余金	7,043	7,043
利益剰余金	15,241	16,484
自己株式	1,008	1,007
株主資本合計	26,767	28,012
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,284	927
繰延ヘッジ損益		44
為替換算調整勘定	584	503
退職給付に係る調整累計額	8	12
その他の包括利益累計額合計	1,860	1,463
新株予約権	319	319
非支配株主持分	477	576
純資産合計	29,423	30,371
負債純資産合計	53,701	55,419

## 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	20,243	23,330
売上原価	13,214	15,284
売上総利益	7,029	8,045
販売費及び一般管理費	1 5,125	1 5,791
営業利益	1,903	2,253
営業外収益		
受取利息	8	10
受取配当金	27	30
為替差益		12
業務受託料	21	56
その他	65	54
営業外収益合計	123	164
営業外費用		
支払利息	39	40
デリバティブ評価損	3	
為替差損	107	
その他	7	2
営業外費用合計	158	43
経常利益	1,868	2,375
特別損失		
固定資産除却損	2	4
特別損失合計	2	4
税金等調整前四半期純利益	1,865	2,370
法人税、住民税及び事業税	425	766
法人税等調整額	159	83
法人税等合計	584	683
四半期純利益	1,280	1,687
非支配株主に帰属する四半期純利益	103	98
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,177	1,588

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	1,280	1,687
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	109	357
繰延ヘッジ損益	81	45
為替換算調整勘定	90	80
退職給付に係る調整額	1	3
その他の包括利益合計	116	396
四半期包括利益	1,163	1,291
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,060	1,191
非支配株主に係る四半期包括利益	103	99

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,865	2,370
減価償却費	789	1,079
のれん償却額	25	95
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	29
賞与引当金の増減額(は減少)	117	32
役員賞与引当金の増減額(は減少)	20	
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	7	7
株式給付引当金の増減額(は減少)	25	30
受取利息及び受取配当金	35	41
支払利息	39	40
為替差損益(は益)	46	8
デリバティブ評価損益(は益)	3	
売上債権の増減額(は増加)	342	476
たな卸資産の増減額(は増加)	71	973
その他の流動資産の増減額(は増加)	181	7
仕入債務の増減額(は減少)	18	55
その他の流動負債の増減額(は減少)	39	58
その他	0	41
小計	2,905	2,108
利息及び配当金の受取額	40	47
利息の支払額	30	36
法人税等の支払額	879	352
保険金の受取額		138
その他	2	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,038	1,904
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	10,727	8,227
定期預金の払戻による収入	10,727	8,227
有形固定資産の取得による支出	1,615	2,710
無形固定資産の取得による支出	11	45
投資有価証券の取得による支出	6	6
その他	280	101
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,914	2,661

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,025	4,208
短期借入金の返済による支出	1,004	3,124
長期借入れによる収入		1,000
長期借入金の返済による支出	5	1,650
ファイナンス・リース債務の返済による支出	21	30
配当金の支払額	298	343
その他	0	
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>305</b>	<b>58</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	46	57
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	228	754
現金及び現金同等物の期首残高	11,864	9,736
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 11,635	1 8,981

【注記事項】

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引について)

当社は、従業員への福利厚生を目的として、従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

取引の概要

当社は、2013年8月29日開催の取締役会において、従業員に対する新しい報酬制度として退職時に当社株式に交換可能なポイントを付与し、株価や業績との連動性をより高め、社員の意欲や士気を高めることを目的に、株式給付信託を導入することを決議いたしました。

この導入に伴い、2013年9月17日付で資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)が当社株式262千株(株式分割後1,048千株)を取得しております。

信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度292百万円、985千株、当第2四半期連結会計期間末291百万円、981千株であります。

なお、2017年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で、2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
賞与引当金繰入額	198百万円	217百万円
退職給付費用	61百万円	87百万円
株式給付引当金繰入額	32百万円	32百万円
貸倒引当金繰入額	0百万円	29百万円
給料及び手当	1,264百万円	1,392百万円
荷造運搬費	1,107百万円	1,252百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	22,363百万円	17,709百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	10,727百万円	8,727百万円
現金及び現金同等物	11,635百万円	8,981百万円



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	299	16.5	2018年3月31日	2018年6月7日

(注) 2018年5月11日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金800万円が含まれております。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年11月8日 取締役会	普通株式	利益剰余金	272	15.0	2018年9月30日	2018年12月5日

(注) 1 2018年11月8日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金700万円が含まれております。

2 2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、1株当たり配当額は株式分割前の配当額を記載しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月10日 取締役会	普通株式	利益剰余金	344	9.5	2019年3月31日	2019年6月5日

(注) 2019年5月10日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金900万円が含まれております。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年11月7日 取締役会	普通株式	利益剰余金	308	8.5	2019年9月30日	2019年12月4日

(注) 2019年11月7日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金800万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当グループは、日用品の企画・製造・販売を主な内容として事業活動を展開しており、「日用雑貨衣料品事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	33円37銭	44円99銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,177	1,588
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,177	1,588
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,276	35,301
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	32円88銭	44円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	532	530
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 1 当社は、2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

2 株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間は1,006千株(株式分割前503千株)であり、当第2四半期連結累計期間は982千株であります。

2 【その他】

2019年11月7日開催の取締役会において、2019年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

(1) 配当金の総額 308百万円

(2) 1株当たりの金額 8.5円

(3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 2019年12月4日

(注) 配当金の総額には、株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金8百万円が含まれております。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

レック株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村上 淳 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 健 夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているレック株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、レック株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。